


退職者 NO.126

# こだま会報



発行日：2019年11月15日／季刊第126号  
 編集・発行：神奈川県職労連退職者こだま会  
 〒231-8588 横浜市中区日本大通1 県庁地下1階  
 発行人：加瀬文隆  
 ☎045 (212) 3179 (代) Fax 045 (212) 3178 (代)  
 Eメール kodama@kodamakai.sakura.ne.jp  
 URL http://tekuteku.jeez.jp

## 足尾銅山と世界遺産・日光を訪ねる



足尾銅山の旧通洞坑にトロッコ電車で入る

てく・テクの会

### 水底に鉍毒の村秘してあり 水面のどかに水鳥の舞う

9月25日朝、海老名を発った一行19人は、日光東照宮等を小グループ別に見学の後、足尾温泉に向い、宿舎近くにある中国人殉難烈士慰霊塔

に立寄った。八路军・国民党軍兵士や「劳工狩り」にあった農民等中国人257人が連行され、109人が銅山で落命した。

\* \* \*

翌日、朝鮮人強制連行犠牲者追悼碑を訪ねる。1940年からの5年間に延べ2416人が連行・動員され、73人の死亡が確認されている。

木の板には、犠牲者の多くが、「金子」「木村」など日本名で書かれていた。

旧通洞坑にトロッコ電車が入り、坑内での過酷な労働環境の一端に触れた後、銅山製錬所跡に屹立する高さ50mの大煙突を望見しつつ松木溪谷に向う。溪谷の手前に築造された巨大な砂防ダム直下にある環境学習センターで、旧松木村の歴史を聴く。

大煙突が排出する亜硫酸ガスが溪谷を覆って酸性雨を降らせ、汚染土壌の流出により渡良瀬川流域に大規模な鉍毒被害をもたらした。

我が国公害の原点とも言われる足尾銅山鉍毒事件は、大気・土壌・水質の環境全般に及んでいた。

(2面に続く)

### 道歩散

国民に安心・安全な食料を

食の安心・安全には、

質の良い種子の安定供給は不可欠です。ところが

2018年4月、「主要

農産物種子法」が廃止されました

◆大手民間のコメの種子の価格は従来10倍もします。農家へ高値のコメの種子を使用させるのに、「種子法」

がジャマだったのでからひどいものです◆生産者の不安が広がるなか、各地の農民・住民などが種子法に代わる種子条例の制定に奮闘しました。その結果、11道県で条例化が

されて大きな前進です◆さらに問題なのは、農家への戸別所得補償制度

がなくなることです。農業の大規模化やロボットの活用を進めるためとされています◆TPPによって、

食の安全も危険にさらされています。昨年、日本は米国の要求に従ってグリホサート(除草剤に含まれて

いる)残留農薬基準を小麦で6倍、ソバで150倍に大幅緩和しまし

た。毎日の食生活に直接影響するのは必至です◆貿易自由化ではなく、

農家への所得補償を復活させて、日本の小規模農業が続けられるように

することが、国民の命と健康を守る唯一の道ではないでしょうか。

(岩柳良雄)

(岩柳良雄)

第70回歴史教室 (散策)

# 鉍毒の村隠したる 葦原に正造翁の 叫ぶ声聞く

(1面より続く)

生活環境を完全に破壊された松木村住民は、1902年、離村のやむなきに至り廃村。村の墓石は龍藏寺境内に「無縁石塔」として積み上げられ、川を挟んで大煙突と対峙している。



中国人殉難烈士慰霊塔



日光にて



群馬県板倉町にある雷電神社

群馬県板倉町、雷電神社前の川魚料理店で名物ナマズ定食を食す。強制廃村された谷中村・渡良瀬遊水地を眺め、想像を絶する広さに驚き、栃木・群馬・埼玉3県境に足を運ぶ。館林市の田中正造記念館で、命を懸けて鉍毒事件と闘った正

造翁の生涯を学び、翁の密葬を営んだ雲竜寺の墓前に合掌して帰路につく。雲竜寺は、陳情のため東京に向かった被害住民デモ(当時の用語では「押し出し」)隊の決起・集結の場であり、翁の遺骨は渡良瀬川流域3県6カ所の墓に分骨されている。

- \* 廃村の憂き目に合いし村人の恨みと怒り墓石の塔
- \* 強いられて連れて行かれた異国にて命落とせり使役の果てに
- \* 水底に鉍毒の村秘してあり水面のどかに水鳥の舞う
- \* 鉍毒の村隠したる葦原に正造翁の叫ぶ声聞く (一杉雄二)

## 古代ローマンの秋葉山古墳・史跡国分寺跡を歩く

5日前に台風19号が来て大雨が降り、東日本各地の河川の堤防が決壊・氾濫・浸水し、多大な損害が生じた。その後も曇天続きで当日の天気は気になったが、散策中は雨も降らずよかった。

相鉄線かしわ台駅に10月17日、12人全員が集合し、①秋葉台古墳群、②龍峰寺、③温故館・国分寺の順に回った。川田勝利さんの息

子さん夫婦に2台の車を運転していただき、分乗して回り大変お世話になった。

### ◆秋葉台古墳群

まず秋葉台古墳群を見学。この名前の由来は、海老名市内では84基と最も標高の高い2号墳の頂上に秋葉社という祠(ほこら)があり、これが全体の名前になったとのこと。

場所は、海老名市北部上今泉の高台にあり、すぐ近くまで住宅が迫っていた。古墳は全部で5基あり、前方後円墳3、前方後方墳1、方墳1

で、多少破壊されて変容したものもあったが、全体的に保存状態は良好だった。また海老名市内には、これ以外にも上浜田古墳群、伊勢山古墳群があるとのこと。

### ◆国分北の龍峰寺

次いで国分北の龍峰寺を見学。こも高台にあり、住宅が迫っていたが、境内はとても閑静だった。

この寺には国指定重要文化財の木造「千手観音立像」があるが、普段は保管庫に安置されていてこの日は拝観できなかった。(3面へ続く)



史跡・秋葉山古墳の前で

こだま俳壇(10月)

残照を総身に浴びて柿すだれ

田中 一男

寺の庭落ち銀杏をひとつ踏む

島田多嘉子

野良猫のねぐらゆたかな草紅葉

中村 桂子

白濁の湯に紅葉の散りにけり

友井 眞言

冷気満つ坑道なんと千余キロ

角田 英昭

藪の中スポットライトの天狗首

常世田芳子

三分の診察終えて初紅葉

鳥海 敏雄

赤まんま舗装の端にひより咲く

柳瀬 節子

石積みにすすきが光る露天風呂

灌澤 正行

薄紅葉雨傘の波揺るぐデモ

木村 武子

鉱毒で亡びし村や萩の花

松尾佐知子

きのこ飯姉を囲みてつどう夜

本山 文子

この川をのさばり泳ぐぼらの群

後藤 貞夫

毒茸食べし話を面白く

講師・太田 土男

(2面より続く)

年2回、1月1日と3月17日に御開帳することのこと。境内には、金木犀が多く、芳香が漂っていた。



会代表の吉田綾子さんの説明を聞く

◆相模の国の国分寺跡・温故館

最後に相模の国の国分寺跡と、ここからの出土品や資料、民具等を展示する温故館を見学。まず温故館で、



相模国分寺の模型(温故館)

模型や出土品、写真等を見ながら寺の概要を聞いた。出土品には、瓦や最近発見された錆びてぼろぼろの太刀、七重の塔の先端に取り付けた水煙の破片等があった。

国分寺は、奈良時代に仏教の力で国家の安寧を祈願するため、聖武天皇によって日本の国毎に建立されたが、設置場所としてこの場所が最も条件にかなっていたそう。

また、伽藍の配置は、奈良法隆寺と同じで、中門から見て右に金堂、左に七重の塔、後に講堂を配置し、周囲を回廊や築地塀で囲み、北側には僧坊棟があった。

建物の礎石は大きいのが、塔の礎石の柱の間隔から、七重の塔で高さ65mあったと推定されたそう。

\* \*

見学会終了後は海老名駅まで戻り、解散した後、皆で近くの食堂に行き、例によって少量(?)のアルコールで喉を潤し、お互いに労をねぎらった。

私は神奈川県にきて50年以上になるが、まだ知らないところが多く、こだま会のいろいろな集いに参加して見聞し、ますます神奈川県が好きになった。OB・OGのみなさんにも、ぜひ、いろいろな集いに参加されることをお勧めする次第です。

(倉田直亮)

予告!! 予告!! 予告!!

●俳句サークル「こだま句会」

月例会 第2木曜日13時～

とき 12月12日(木) 1月9日(木)

ところ 県庁本庁舎地下1階(県労連会議室)

指導 太田土男先生(俳人協会)

会費 800円(投句のみ500円)

申込先 こだま会事務所 ☎045(212)3179 (火曜日のみ)

●食文化を楽しむ会(薬膳料理)

とき 12月5日(木) 11時～15時

ところ 西地区センター

(横浜駅西口徒歩10分)

内容 風邪予防の薬膳料理

講師 亀井禎子会員

会費 1800円

申込先 こだま会事務所 ☎045(212)3179 (火曜日のみ)

●楽しい料理教室(詳細は同封のチラシ参照)

とき 11月29日(金) 11時～15時

ところ フォーラム南太田・調理室(横

浜市男女共同参画センター横

浜南・京急「南太田」下車3分)

申込先 こだま会事務所 ☎045(212)3179



会員  
紹介

-53-

私は2010年に退職し、現在保育園併設の病後児室に勤務している。昨年より俳句サークル『こだま句会』の仲間入りをした。

\* \* \*

私は2010年に退職し、現在保育園併設の病後児室に勤務している。昨年より俳句サークル『こだま句会』の仲間入りをした。今年6月末から9日間、所属する全日本写真協会の人たち4人と、30年間スイスを撮り続けている写真家の小川氏の5人で、スイスアルプス撮影の旅に出かけた。スイスは1975年の登山で訪れて以来。チューリッヒ空港に降り、電車で一路グリンデルワルト

あたり、輝きだす瞬間をパチリ。ホテルに戻り、朝食。いよいよハイキング開始。ロープウェイを乗り継ぎ、2168メートルのフィルストに到着。そこはまだ春。雪解けの清冽な水が流れ、小川となっていた。リュウキンカ、ロッカス、桜草などの高山植物が

き。スイスの旅で最も感激したのは、グリンデルワルトから途中中トロッコ電車に乗り換えて、終点のシーニゲプラッテ(2068メートル)。白く輝くアイガー、メンヒ、ユングフラウの3山などが眺望でき、素晴らしかった。



スイスアルプスと花の絨毯

## スイスアルプス 撮影の旅

常世田 芳子さん



マッターホルンをバックに夫と

に着いたのは、夕方遅く。駅近くのホテルに宿泊。ホテルの窓辺には、色とりどりのサフィニアの花が咲き、私たちを迎えてくれた。翌日の早朝、村はずれの丘へ。アイガーなどの雪の岩峰に陽が

所々に咲いていた。例年では花の絨毯だということ。私たちが菓子を食べていると、羊たちが近くに寄ってきて、ジーと見ている。そこをパチリ。ロープウェイで下山してしまうのは惜しい。近くのレストランで、アイガーを眺めながらビールで乾杯。何とも言えない優雅なひとと

最後に、スイスの自然が素晴らしいのは、スイス国民がたゆまぬ手入れをしているからだと思っただ。ホテルサイドの丘で、花を栽培しているのを見た。

ホテル周囲の丘は、黄色のバターカップやハクサンイチゲに似た白の絨毯だった。その花たちを踏まないよう、ハイジグになった気分で飛び回り、何度もシャッターを切る。そしてホテルの中に入ると、床や壁は木材でできていて、アンティークで重厚な造り。ベッドも木製。部屋の窓から額に入った絵のように、アイガー3山が目に入ってくる。夕食時、テラスから夕陽に染まる景色にうっとり。遠くに目をやると、茜色にかすむ湖。これがスイスと実感。翌日、グリンデルワルトからツェルマットへ移動。今度は、マッターホルンが顔を見せてくれた。

# 町田の米軍機 墜落事故 (1964年)



町田市市内に仮設置された平和祈念母子像  
(作者・日比野知三氏)

1964年に町田駅近くの市街地に米軍機が墜落し、母子を含む死者4人と32人の重軽傷者を出す悲惨な事故が起きました。こだま会会員である相模原在

住の小川政則さんらを中心に実行委員会がつくられ、犠牲者の追悼と二度と事故を繰り返さないという願いを込めて平和の母子像建立募金が呼びかけられました。そして、2017年に母子をモチーフにした平和像(作者・日比野知三氏)が完成。早速、米軍機の騒音対策を行う町田市有地への建立を希望しましたが、管理責任などを理

由に市はこれを拒否しました。  
**山田洋次映画監督から花束**  
そこで、やむを得ず実行委員会共同代表の私有地に母子像を仮設置。9月29日には100人を超す参列者を迎え、「呼びかけ賛同人」のひとり、山田洋次映画監督から花束が届くなど、盛大に除幕式を行いました。  
本来は墜落地に近い市有地への建立が希望です。同会は、引き続き市への要望を継続してとりくんでいきます。  
(友井眞直)

## 追悼・平和祈念母子像が仮設置

### 全国自治体退職者会連絡会第22回総会

# 自治体退職者だからこそ 憲法を守り、地域で退職者・ 高齢者の生活と権利を守る

全国自治体退職者会連絡会の第22回総会が8月24日、東京都文京区で開かれ、全国から65人が参加。はじめに、長い間役員・事務局次長として活躍された加藤利秋さん(こだま会顧問)退任の報告があり、加藤さんの労をねぎらいました。



活発な発言が続いた総会

7月の参議院選で市民と5野党・会派が共同の力で改憲勢力の3分の2を阻止できたこと、全国各地の運動・とりくみの報告、発言が多くありました。印象的だった発言の一部を紹介します。「退職者だからこそ、楽しく、健康で、いきいきと仲間のつながりを」「楽しみながら学習も」「地域で、自治会、年金者、その他さまざまな場面で、地域住民の今の要求運動のとりくみをしている」ことなどが語られました。  
こだま会からは、会報、平和のとりくみ、学習、楽しくつながるとりくみ、集会にはこだま会の旗を持って参加している、ことなど、小島八重子事務局長が発言しました。

私からは、いま横浜で問題になっているカジノを誘  
致させないとりくみや、敬老パスを改悪させないとりくみ、そして「全安心の医療・大幅増員(自治労連医労連全大協)」の署名の訴えをしました。  
また、「会の『連絡会つうしん』は経費削減のためにも、迅速に伝えるためにも、紙ベースの配布だけでなく、メールの活用を」「全国の仲間が集まれる学習会や交流会などの計画を」「せっかく厚労省交渉をするのだから、全国から参加できる方法の検討を」等々、それぞれ現役世代に負けず劣らずの元気な発言が続きました。  
いろんなことを楽しく、国民の生活を守る運動を続けることが元気の源と確信しました。  
(植木真理子)

# 改憲世論を押し戻せ

神奈川県職員九条の会は9月7日、総会と平和の集いを万国橋会議センターで開きました。

第1部の「総会」では、加瀬文隆代表挨拶の後、1

年間の活動報告・会計報告と2019年度の方針案、役員案を提案し、フロアからは平和行進を始め地域のとりくみが話され、議案を補強し、すべての議案が承認されました。

第2部の「平和の集い」は、神奈

## 神奈川県職員九条の会 総会&平和の集い



地域の運動を交流



つどいで 平和の 講演する 田崎基氏

川新聞記者の田崎基氏が「岐路に立つ憲法」のテーマで講演しました。

安倍首相は、2017年5月3

日、「自衛隊明記など4項目の改憲提案」と「2020年改正憲法の施行」を提案。田崎氏は、「一見唐突のようだが、着々と準備して来たグループがある」と、日本会議(1960年代の民族派学生運動のメンバーが源流)という組織が、一貫して改憲運動を推進、世論づくりをし

てきたことを解明しました。

「今年7月の参議院選挙では、改憲勢力は3分の2割れたが、わずか4議席の差だ。改憲勢力は諦めていないし、憲法改正賛同署名は1千万筆に達している(国民投票に活用可能)。内閣支持率は40%台維持している」等の実情を報告。さらに「ジェンダー平等や政府の勝手な国会運営の規制など、立憲主義強化の立場からの加憲の意見もある」と世論の状況を紹介しました。

その上で「国家権力を制限し、国民の権利・自由を守ることを目的とする憲法の意義を活かすことが大切」、「無関心層に働きかけ『安倍改憲バンザイ、とにかく改憲』の改憲世論を押し戻し、『ライオンII権力』を制限する檻である憲法を守っていくことが今は重点」と強調しました。新しい方もみえて充実した集いになりました。参加者は24人。

(事務局長・佐伯義郎)

### お悔み申し上げます

6月21日の定期総会後に事務局に連絡のあった亡くなられた会員です。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(内は享年)

- 松岡 道子 様 (91)
- 大津恵美子 様 (87)
- 諸星 安一 様 (87)
- 前島 克全 様 (76)
- 三浦 新一 様 (77)
- 小林 莞二 様 (85)
- 河野 宗昭 様 (92)

### 〈訂正とお詫び〉

前号(215号)3面「各議案の提案」で2号議案・活動方針案の提案者「一杉雄二・副代表幹事」を「仲戸川実・副代表幹事」に訂正。15面「こだま俳壇」の柳瀬節子さんの俳句にある「春嵐」を「青嵐」に訂正し、お詫びします。

### ◇ゆっくりと人生を

藤原慎一(相模原市)

私の永年の健康法はチラシ配り、ウォーキングももう限界ですが、こだま会に元気づけられながら、ゆっくりと人生を歩いて行きます。

(7面に続く)

### ◇燕は益鳥

山本秀実(長野県飯山市)

前号の『こだま会報』に国分勝広さんの「燕への想い」が掲載されていました。燕の子育ての困難さ、それをサポートする関係者のやさしさが表れていました。私の経験ですが、今から半世紀以上も前、当時茅葺き

の我が家の玄関の梁にも燕が巣を作りました。雛を大きな青大将が襲おうと這い寄ったのを、竹の棒で叩き落したことを思い出しました。

しかし、最近残念なことに、山間の田園地のこのあたりでも燕の姿が見られなくなりました。幼い頃祖父

父母に、「燕は農作物を食む虫を獲ってきたことを解明しました。改憲勢力は3分の2割れたが、わずか4議席の差だ。改憲勢力は諦めていないし、憲法改正賛同署名は1千万筆に達している(国民投票に活用可能)。内閣支持率は40%台維持している」等の実情を報告。さらに「ジェンダー平等や政府の勝手な国会運営の規制など、立憲主義強化の立場からの加憲の意見もある」と世論の状況を紹介しました。

てくれる益鳥だから大切にしないといけない」「捕まえると家が火事になる」と言われ、ことのほかこの鳥への思い入れが強いのは私ばかりではないようですね。

いつかまた、空を縦横無尽に飛び交う燕が戻ってくれることを心待ちにしている老農夫です。

（6面より続く）

健康寿命を延ばそう

加藤和子（相模原市）

『こだま会報』を毎号楽しみに読んでいます。今年、後期高齢者になりました。数人集まると、病気のことで、年金のこと、税金のこと…、すべてお金にかかります。節約をしながら、運動、平日ランチ会、プチ旅行などを楽しんで、健康寿命を延ばそうとがんばっています。4月の誕生日にはウズベキスタンに行き、お誕生会をしていただきました。9月にはシンガポールのマリナー・ベイ・サンズに泊まりに行きます。

※忘れかけていた田園風景  
小沢加代子（相模原市）  
先日、バスの車窓から、めずらしく赤トンボ一匹が飛んでいるのを見つけました。忘れていた田園風景、大切な自然。秦野の山里を守る活動、頑張ってください。

※懐かしさで胸が一杯  
三井光子（横浜市）  
「せいかつ短信」に寄せられた大勢の方の近況に、知っている名前を目にし、一気に現職時に戻り、懐かしさで胸が一杯になり、定年後20年の歳月に感無量でした。

健康寿命を延ばそう  
小林平治（藤沢市）  
「パズルで頭の体操」を、ボケ防止のためとくりくんでいます。これからも出題よろしく願います。

ボケ防止で頭の体操

小林平治（藤沢市）

「パズルで頭の体操」を、ボケ防止のためとくりくんでいます。これからも出題よろしく願います。

※憲法審査会に懸念

佐藤榮一（静岡県富士宮市）

米国はベトナム戦争の時にジェイソン機関というものをつくり、著名な科学者を集め、ベトナムの人々をいかに効率よく殺すかを議論させた。議論のなかで、兵士はゲリラを殺した時、その報告数をたいがい水増し報告する。だから殺した時に、ゲリラの左耳を切り取り針金に刺して持ってこさせればいいという意見が出た。科学者の精神的誘導が狙いで、以後その科学者たちはベトナム戦争に反対出来なかった。いまの憲法審査会はジェイソン機関と似た役割になるのでは。議論だけなら良いとして、やがて憲法改定に反対できない泥沼にはまりこむことに懸念している。野党分断に利用されたり、自衛隊も防災に役立つ、ミサイルが飛んでくる、など審査会での都合の良い意見で国民を煽り改定に誘導していく、そんな危険が隠されている気がする。



会員の広場



トナム戦争に反対出来なかった。いまの憲法審査会... 似た役割になるのでは。議論だけなら良いとして、やがて憲法改定に反対できない泥沼にはまりこむことに懸念している。野党分断に利用されたり、自衛隊も防災に役立つ、ミサイルが飛んでくる、など審査会での都合の良い意見で国民を煽り改定に誘導していく、そんな危険が隠されている気がする。

クロスワードパズルで頭の体操

◇応募要領◇

- ①ヒント：2重枠に入った文字をAからEの順に並べてできる文字は？
②回答送付先：231-8588横浜市中央区日本大通1 県庁舎地下1階神奈川県職労連退職者こだま会パズル係
③郵便葉書に答、住所、郵便番号、氏名を記入し、1月14日までに上記②へお送りください。メールも可。
④賞品：正解者から抽選で5人の方にクオカード進呈します。
⑤発表：次号（2月15日号）

crossword puzzle grid with letters A-E and numbers 1-13 indicating starting points for clues.

- ヨコのカギ
1 陰暦10月の異称。この月は八百万の神々が出雲大社に集まる。
4 沖縄県の県庁所在地〇〇市
6 千昌夫が歌う『北国の春』
8 まつ毛を濃く見せるために塗る化粧品
10 「〇〇あれば苦あり」
11 〇〇♀雌
●タテのカギ
1 飴売りなどが客寄せのために街頭で演じた劇画。今はあまり見られなくなった。
2 落葉高木。秋に真っ赤な小粒の果実が実り、美しい。
3 大豆を炒って挽いて粉にした〇〇粉
5 精出して仕事をやる。よく〇〇〇〇人だ
7 魚のスズキのこと。シー〇〇
9 ウリ科の蔓性多年草。〇〇〇〇
11 瓜。晩秋、実が赤く熟す。
菊池寛の戯曲「〇〇帰る」

Table showing previous answers for the crossword puzzle in a grid format.

●当選おめでとう●

抽選で次の5人の方にクオカードを進呈。小沢加代子／城所和子／佐藤榮一／高橋永子／向田尊司（敬称略）

係から：回答はがきの余白に、本紙についての感想や要望、身近な話題などひとことを。「会員の広場」欄などに掲載させていただく場合があります。匿名の場合は「匿名希望」とご記入ください。

# 長寿をともに喜びあえる社会へ

## 第33回 日本高齢者大会 in 福島

福島県郡山市内で9月25日、「みんなで築こう！憲法輝く原発ゼロの日本、長寿をともに喜びあえる社会」をスローガンに第33回日本高齢者大会が開かれ、のべ3800人が参加。こだま会からは、仲戸川実が代表で参加しました。

●全体会 記念講演は安齋 郁郎氏

初日の全体会には、会場（ユラックス熱海多目的ホール）満杯の2000人が参加。合唱構成『ふくしまに生きる』で幕開け。歓迎のあいさつ、来



福島県郡山市で開かれた第33回大会

賓あいさつ、基調報告、記念講演、福島・沖繩からの発言、文化行事(尺

### 絵手紙



奥津弘久さんの作品



宮澤恭子さんの作品

●第4教室 前半「後期高齢者医療費負担2割化を許すな。全世代型社会保障の正体」

八と琴・ギターのコラボ)、特別決議と続き、次期開催県の長野県に大会旗が手渡されました。来年は9月25日・26日に信州大学工学部キャンパスを会場に開催の予定です。

安齋化学・平和事務所長で立命館大学名誉教授の安齋郁郎氏の記念講演『原発事故から8年半！ ふくしまの現実と原発ゼロへの道』の要旨は次のとおりです。

①福島における原発反対運動と私、②2011年3月11日からのかわり、③福島の現在、④福島の未来、私たちの未来、と4本の柱で報告しました。原発事故で原子炉に溶け落ちた核燃料(デブリ)の現状に

もかわらず、取り出し作業の先が見えないと指摘。セシウム137の放射能が10分の1に減るのに100年かかり、いまだに帰宅困難地域の帰宅困難性があるとして、「事態を侮らず、過度に恐れず、理性的に向き合う」ことが大事と語り、自然放射線による年間被曝量の実態、自然被曝と医療被曝、原子力開発史などについての資料を駆使した素晴らしい講演でした。

できる限り速やかに原則2割負担とすべき、現在の世代が受け取る受益は、現在の世代が責任をもって負担することを徹底していく必要がある(令和時代の財政のあり方に関する建議・2019年6月19日より)、後期高齢者医療保険料の滞納者に対して、滞納処分を実施(三浦市)、後期高齢者に対する滞納処分17年度は6816件(8年前の約8倍)、年金だけでは2000万円足りない、「ゆりかごより墓場まですべての生活面が社会保障制度によって保障される(1950年社会保障制度に関する勧告)」から、「国民は自らの努力によって自らの生活を維持する責任を負うという原則が民主社会の規定にある(1995年社会保障制度に関する勧告)」へ等の不条理な事態に対し、講師・参加者一緒に「なんでやねん！」と怒りの合唱。高齢者を取りまく情勢は厳しいが、憲法25条をしっかり理解し、地域・市町村・都道府県レベルで具体的な政策づくり、国の政策の転換の視点で運動を積み重ねていくことが大事であると痛感しました。後半「現役時代を含む今日の年金問題」は省略。(仲戸川 実)